

男子第三部

昨年より27チーム減の45チームのエントリーにとどまった男子第3部。男子第3部が創設された昭和63年第37回大会（於、秋田県立体育館）の41チームに次ぐ2番目に少ない参加チーム数であった。しかし、試合内容は早い回から強豪同士が対戦する見応えのある戦いが続いた。結果は地元枠で参加した警察の雄、愛媛県警察等の強豪を次々に降した本大会で出場2回目のパーク24Aが、決勝戦で十全会・回生病院を5対0のパーフェクトで降し、初優勝を飾った。

準決勝戦第1試合

地元松山刑務所は、第2回戦の日光警備柔道部を相手大将の欠場に救われ2対1で降した以外は順当に勝ち上がって準決勝戦に進出。対する十全会・回生病院は第3回戦の同系の十全会・聖明病院戦を1対1の内容勝で制した他は圧勝で準決勝戦へ駒を進めた。

試合は、十全会・回生病院の先鋒米田が積極的な柔道で、チームに良い流れを作った。その後体格に勝る鎮守、西原が積極的に前に出て一本勝を重ね、前半の3人で、十全会・回生病院が決勝戦進出を決めた。

松山刑務所 2 - 3 十全会・回生病院

(先鋒) 清家 仁宏 3段	優勢勝 ☹	米田 義弘 初段
(次鋒) 桑山 雄太 初段	崩袈裟固	鎮守 直樹 3段
(中堅) 野本 幸治 3段	払腰	西原 克明 3段
(副将) 永田 泰敏 3段	大外刈	坂田 秀幸 2段
(大将) 山田 辰彦 3段	小外掛	西條 裕喜 3段

先鋒戦。清家右組み、米田左組み。米田は前半から積極的に前に出て内股を仕掛ける。清家も背負投で応戦。3分10秒、米田の背負投が有効となり、そのままタイムアップ。

次鋒戦。両者右組み同士。体格で圧倒する鎮守は両襟を引き付けて前に出、払腰で攻める。桑山は大内刈で応戦するも、1分10秒に鎮守が払腰で有効を奪い、そのまま崩袈裟固（後袈裟固）で一本。

中堅。右組みの両者の中堅戦。体格の勝る西原が奥襟を引き付けながら前に出、対して野本は背負投で応じる。1分58秒に西原が場外際で払腰から巻込んで一本。

副将戦。永田左組み、坂田右組みのケンカ組手。上背に勝る永田が両襟を引き付け、大外刈、払腰で攻勢。2分18秒には、坂田の背負投を返して有効を奪う。続く2分35秒に永田が場外際の大外刈で一本。

大将戦。体格の勝る山田が、両襟を引き付けながら、小外掛で攻めると、開始37秒、これが見事に決まって一本。

準決勝戦第2試合

若手を揃えたパーク24Aは破竹の進軍を重ね、地元枠で出場した強豪愛媛県警察を先鋒戦から3連勝して降し準決勝戦へ。一方、大阪府柔道整復師柔道連盟はベテランの永田、谷本らの活躍で準決勝へ勝ち進む。

試合は、先鋒戦不戦勝、次鋒戦を快勝したパーク24Aのペースで始まる。大阪府柔整連の中堅永田、大将谷本のベテランは一矢を報いるべく攻勢にも出ていたが、それぞれパーク24の若い延城、海老沼の激しい動き、上手い試合運び、巧みな技の前に敗れ去る。パーク24Aが決勝戦初出場を果たす。

パーク24A 4 - 0 大阪府柔道整復師柔道連盟

(先鋒) 清水 大輔 3段	不戦勝				
(次鋒) 平尾 譲一 3段	合せ技	北 英樹 3段			
(中堅) 延城 啓和 3段	支釣込足	永田 尚道 4段			
(副将) 月波 貴広 3段	引分	桂 剛 6段			
(大将) 海老沼 聖 3段	内股透かし	谷本 竜孝 3段			

先鋒戦。大阪府柔道整復師柔道連盟は、前の試合で反則負を喫したため出場できず。補欠もなく不戦敗となる。

次鋒戦。平尾177cm、85kg、一回り小柄な平尾は左組みからよく動き、50秒に190cm、120kg長身の北を背負投から連携の大内刈で有効を奪う。続く1分34秒には体落で技あり。更に平尾は2分16秒、体落で有効

の後、2分40秒上四方固で押さえ込み、合せて一本。

中堅戦。延城右、永田左の組手争い。永田が押し気味ながら中盤まで互角。中盤過ぎの2分28秒になって、延城が永田の技を小内刈で返して技ありを奪う。時間切れ寸前、永田が焦って前に出てくるところを、延城が支釣込足で合わせると、これが見事に決まって3分50秒、一本。

副将戦。182cm、137kgの月波は右組み、180cm、100kgの桂が左組み、共に組手争いに終始し、大きな技の攻防も無く引分。

大将戦。小柄な左組みの海老沼が、俊敏な動きから背負投で谷本を翻弄。1分35秒、谷本に指導1。2分5秒には、焦った谷本の内股を綺麗に透かして一本。

決勝戦

出場2年目で初優勝を目指すパーク24Aが、中量級の選手が十全会・回生病院の大型選手に挑む構図であったが、十全会・回生病院の大型選手に対し、小気味良い体捌きで見事な一本勝を次々と決め、難なく初優勝を果たす。

十全会・回生病院 0 - 5 パーク24A

(先鋒) 米田 義弘 初段	内股	清水 大輔 3段
(次鋒) 鎮守 直樹 3段	合せ技	平尾 譲一 3段
(中堅) 西原 克明 3段	隅落	延城 啓和 3段
(副将) 坂田 秀幸 2段	(指導2) ⊖	月波 貴広 3段
(大将) 西條 裕喜 3段	大内刈	海老沼 聖 3段

先鋒戦。米田左組み、清水右組みのケンカ組手。暫しの組手争いの後、21秒に清水が場外際で左引手を握るや否や、米田の懐深く飛び込み内股一闪。見事に決まって一本。

次鋒戦。右組みの鎮守に対する左組みの平尾は倍以上の体重差をものともせず、小気味の良い柔道を見せ、開始42秒に左組みでしっかり組み、タイミングを計って大内刈で鎮守を刈り倒して有効を奪い、そのまま袈裟固に。すぐに崩裂

袷固に移行して25秒、余裕を持って鎮守を押さえ込む。

中堅戦。二回りも体重で劣る延城だが、左組みの西原に組み負けず、堂々右組みで組み合う。開始早々、右支釣込足で西原をぐらつかせる。1分過ぎには、延城が西原の後帯に手を回して仕掛けようとする端を狙って、西原が浴びせ倒すように体重を掛けて来たところを、延城は逆に右に捻るように西原を右隅に巻き落とすと、1分9秒、西原の巨体はごろりと回って倒れる。パーク24Aが三連続一本勝で、早々に初優勝を決める。

副将戦。右組みの両者、坂田は巨漢月波に対し、釣手を殺して対抗する。攻撃しない月波に1分6秒指導1。しかし、1分55秒と2分28秒に坂田に袖口注意で指導が与えられる。その後は両者、一進一退の攻防の末時間。指導の数で月波の勝。

大将戦。右組みの西條に対し、左組みの海老沼は体重差をものともせず、真っ向から組み合う。開始9秒、右足を飛ばし内股に入ると見せて、右に振ろうとした西條の動きをよく見た海老沼が西條の右足を内側から鋭く刈り込むと、西條はもんどり打って背中から倒れ一本。海老沼、電光石火の早業で吉田秀彦新監督の門出に花を添える決勝戦全勝を決める。